

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「沖縄シンカプロジェクト」進化事業
事業主体 (連絡先)	川上村 南佐久郡川上村大深山525
事業区分	(6)オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,849,817円 (うち支援金: 1,387,000円)

事業内容

冬の気候が、20℃前後と川上村の夏の気候と似ている沖縄県恩納村と川上村は長い間自治体交流を続けてきた。

川上村は、夏は高原野菜の収穫で多忙を極めるが、冬は農閑期となり農業者が長い時間とレタス栽培の高い技術を持って余している。この時間と技術を、多くの遊休農地を抱え若者農業者の定着を目指す恩納村で活用する取組(シンカプロジェクト)が平成27年度から始まっている。

川上村の若手農業者が持っている野菜栽培技術で恩納村遊休農地の活用など農業振興に協力する。

一方、沖縄県は国内屈指のリゾート地で多くの観光客が訪れていることから、恩納村の協力を得ながら、沖縄県内で川上村産の夏レタスのブランド化と消費拡大につなげる。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 川上村若手農業者11名が、農閑期の時間と野菜栽培技術を駆使し、恩納村遊休農地でレタス栽培に取組んだ。川上村と異なる野菜栽培に適さない土壌で品質の良いレタスを収穫し、農業技術の研鑽と恩納村農業者と交流を図った。
- ② 恩納村産業まつりで、シンカレタスを大勢の人に配布することが出来た。シンカプロジェクト取組みによる恩納村との交流発展により、川上産レタスのブランド化と販路拡大につながると手ごたえを感じた。
- ③ 川上村農業者の技術協力のもと、15戸の恩納村農業者がシンカレタスの栽培に取組んだ。1年目にして「道の駅」やリゾートホテルに販売し収益を上げることが出来た。

今後の取り組み

恩納村は年間260万人もの観光客が訪れている。また、恩納村にある道の駅「おんなの駅」は、年間110万人が訪れ、6億円弱を売上げるマーケットである。シンカプロジェクトの継続的な取組により恩納村農業振興に協力するとともに、姉妹都市友好交流村である恩納村の協力を得ながら、沖縄県内で夏の川上村産レタスのブランド化と消費拡大につなげる。

今後、野菜栽培に取組む恩納村農業者を増やし、両村農業者の交流を更に拡大していく。

また、両村の「おんなの駅」と「マルシェかわかみ」の特産物交流によるブランド化と販路拡大を図る。



【収穫された野菜】

【目標・ねらい】

- ① 川上村農業者の農閑期の時間創出とレタス栽培技術の研鑽、恩納村農家との交流
- ② 沖縄県内における川上村産レタスのブランド化と販路拡大
- ③ 沖縄県恩納村の遊休農地の解消と若者農業者の定着をはじめとする農業振興

※自己評価【 A 】

【理由】・恩納村農家15戸が、遊休農地を活用し、シンカレタス栽培に取組み、「道の駅」やリゾートホテルへ販売した。

・恩納村遊休農地の解消 110a

・シンカプロジェクトが縁で、沖縄県恩納村と川上村が姉妹都市友好の調印締結を行った。(平成29年2月3日)

・川上村の若手農業者11名がシンカプロジェクトに取組み、農業技術に磨きをかけた。